

郡研に新風

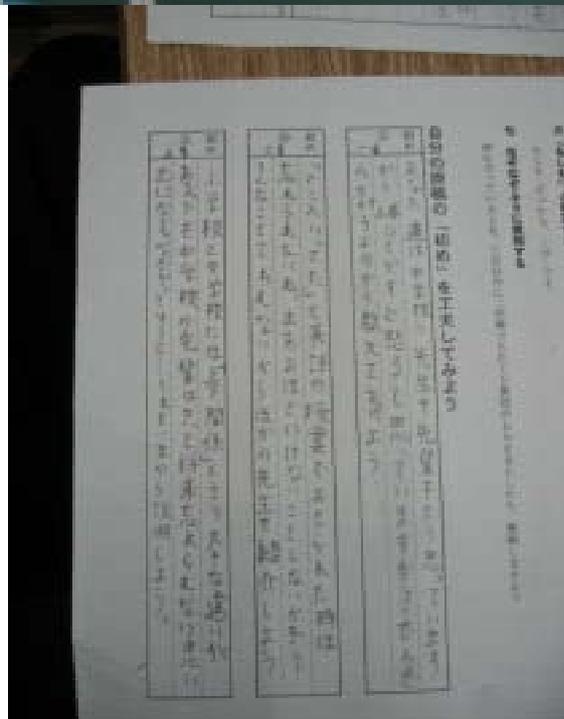
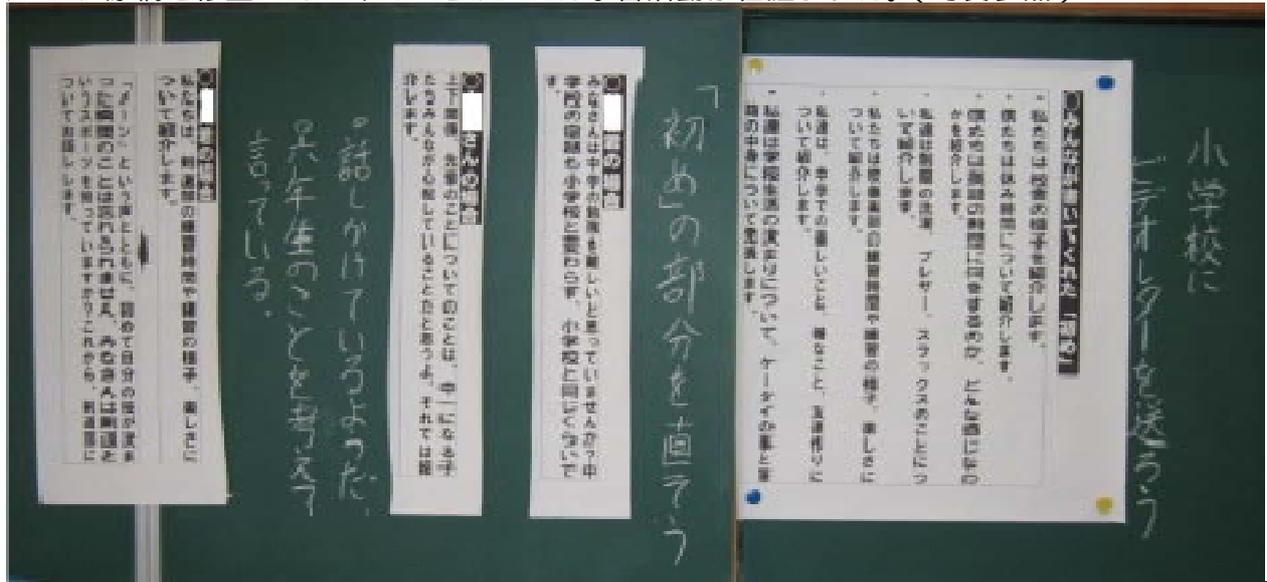
小中連携をめざして第一歩

10月12日(水)、常盤中学校に於いて、中心講師として筑波大学教授田中統治先生をお迎えして、上高井教育会研究委員会国語科公開授業が行われた。本年度の実践は、5月21日(土)に行われた教育会総会の御講演を受け、研究推進委員会で研究の方向・実践のあり方を探りながら小中連携に向けての第一歩を踏み出そうとした試みである。

本研究委員会では、文部科学省より指定を受けた研究開発学校(品川区)の実践に着目し、「系の学習指導要領」を参考に、「小学校・中学校を見通したつきたい力」を「コミュニケーションをする力」とした。また、その実践力や具体的な力の窓から見た生徒の姿、願う姿を明確にしようと試みた。

今回の公開授業では、「小学校六年生に、中学校を紹介するビデオレターを送ろう」という題材を扱った。主として発表する力をつけることが中心となり、本時においてはビデオレターのスピーチ原稿を書く場面での工夫をめざしたものである。

具体的には、スピーチ原稿のモデル文を提示し、そこで用いられている効果的な技法を知り、スピーチ原稿を修正していくことをめざした学習活動が仕組まれた。(写真参照)



板書より
授業の流れ

学習カード
より



発言の様子



学習カード
に書き込む
様子

授業後は、充実した研究会が持たれ、小中連携・カリキュラム等の面から中心講師の田中先生に御指導を頂いた。

それにしても、小中の人事交流経験者も多く、研究委員会そのものが小中の教員で構成されている点からすれば、既に上高井は素地としての小中連携は先進的ではなかろうか。本年度及び今回の実践は、小中を見通した力に視点をのせた試みの第一歩であるが、そうした素地からも今後さらなる発展が期待できる。また、京都市ではキャリア教育での実践がなされていること(講師の御指導より)を考えれば、総合はもちろん、教科を越えて、より幅広い題材を求めた展開も可能であるように思われる。

さらなる発展と可能性に思いを馳せた秋の一日であった。